

第49回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和4年4月11日（月） 18:00～19:15

2 形態 web会議

3 出席者 50名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

○今回は多数の委員の交替があったため、新委員の紹介があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○3点報告があった。

・昨年度から始まった「岡山県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」（以下、妊孕性促進事業）について、順調に事業を開始することができて、数件の申請もいただいております。皆様に感謝申し上げます。また、本件における指定医療機関について、3月31日付けで倉敷中央病院を新たに指定したので、岡山県では岡山大学病院、岡山二人クリニック、三宅医院に加えて4病院となりました。

・3月11日に国の方で妊孕性温存療法に関する検討会が実施された。がん患者等の保存後生殖補助医療にかかる支援について、妊孕性促進事業の助成対象が増えることが決まった。これまでは妊孕性促進事業で精子・卵子の凍結保存について助成を行って、保存後の体外受精・人工授精等は特定不妊治療費助成事業（以下、不妊治療事業）でフォローしている状況であった。令和4年度より不妊治療が保険適用となったため、今後不妊治療事業は廃止されることとなった。保険適用部分について、もともと不妊の方を対象にしているため、がん患者には（もともと不妊だったわけではないので）適用されない。そこで、がん患者の体外受精等にも助成しようという話が持ち上がり、昨年度から始まった妊孕性促進事業で助成できるように見直しすることが決まった。国の方で決まったものの各都道府県は初めて耳にした件であり、対応に追われている状況である。岡山県においても検討中であり、実施することが決まれば本会議でお知らせさせていただく。

・今年度末で多くの拠点病院の指定が切れるので、指定更新の手続きが必要となることをお知らせしておく。

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和3年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたいと依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計（R3年度）について報告があった。

・閲覧数については、例年同様「セミナー・講習会（医療関係）」が最も多く、「がん拠点病院とは」「地域連携パス」と続く。訪問者は9割以上が初回、地域別では約8割が岡山県内となっており、前年度と同傾向であった。

(3) 作業部会等

① 地域連携パス部会

○令和3年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績について報告があった。

・(R3.11～R4.3集計分)について、倉敷中央病院が主に活動しており、前年度より胃癌が11件、乳癌が4件増加したことで、最終的に12件の増加でTOTAL件数103件となった。

・年間を通して見ても(R3.4～R4.3集計分)、倉敷中央病院の活動件数が最も多い。最終的にはTOTAL件数1件減の217件となった。引き続き連携パスの活用をお願いしたい。

・岡山県統一版の5大がんの地域連携パス診療手帳を更新する件について、R3年度は「肺がん」の更新を行ったのでぜひご活用いただきたい。「乳がん」と「肺がん」は最近更新されたが、他は平成22年に作成して以来更新されていないので、そろそろ更新する必要があるかと思う。次は希望

者の多かった「大腸がん」を更新してはどうかと提案を受けているので、進めていく予定である。皆様のご協力をお願いしたい。

- ・出席委員より、このパスを使用すると紹介状の代わりになるのかと質問があった。岡山大学病院等には患者が紹介状を持って行かないと選定療養費が実費でかかるので、紹介状を書いて持たせている。このパスに必要な項目を記載しておけば紹介状として扱ってもらえるなら、事務手続きも簡素化できるし、紹介状を書く医師の作業量も減ると思うが、いかがか。
- 岡山大学病院：岡大から他院に紹介して1年に1回逆紹介するパスを運用する場合選定療養費はかからない。確かにその度に紹介状を書くのは負担なので、パス自体が紹介状と同等の扱いとなれば良いと個人的には思う。今後検討していきたい。

② がん相談支援部会

- 1月31日にweb開催された第47回がん相談支援実務者会議について報告があった。
 - ・がん相談部門のPDCAサイクルについて、昨年度が2クール目における最終年度(3年目)の相互チェックの年で、昨年12月末までにオンラインを利用して実施した。1月の部会で総括を行い、各施設で実施できたことと取り組めなかった課題を整理していただいた。相互チェックを行うことで、普段あまり話す機会の無い他部署の方や管理職に参加していただくことで課題がより明らかになったという面があったかと思う。この評価は他施設と比べるというのではなく、他施設の報告を聞くことで良いところは取り入れ、自施設に不足しているところは補っていくものと考えている。そして次サイクルにつなげていけたら良いのではないかと皆で話し合った。
 - ・4月から始まった3クール目について、部会員の皆様からいただいた意見を盛り込んだPDCA評価表(案)が出来上がったので各施設に配布したところである。次回の部会(5月30日)で新たな目標を発表していただく予定である。
 - ・がん相談員研修は年3回行っているが、最終は3月27日に実施できた。

③ 緩和ケア部会

- 3月7日にweb開催された第28回緩和ケア実務者会議について報告があった。
 - ・日本緩和医療学会が行っている2021年度緩和ケアチーム登録について、全国集計、岡山県内の登録施設(8施設)の集計、そして自施設のデータを比較して自己評価していただく。
 - ・毎年行っているがん拠点病院現況報告から緩和ケアに関する項目を抽出した一覧表を見て、こちらも自己評価していただく。積極的なPDCAサイクルではないが、このような形で自己評価を進めている。
 - ・昨年12月に開催された都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会で、がん診療連携拠点病院整備指針の見直し提案がなされたので、この点について意見交換を行った。提案については、緩和ケアに関することと、がん相談に関することの2点の提言が、少し文言を変えた形ですでに国がんから厚生労働省に提出されている。
 - ・今年度の緩和ケア研修会開催状況(予定)について、コロナ禍で昨年度同様受講者を院内に制限する施設も多く、拠点病院以外の病院で研修を受けている医師が受講しにくいという状況が続いている。

④ がん看護部会

- 3月25日にweb開催された第59回がん看護部会について報告があった。
 - ・各施設におけるがん看護研修の昨年度の実施状況を報告した。
 - ・岡山県で5領域7分野の共通スライドを作成しており、毎年見直しを行っているので今年度も担当を決めて行う。また、岡山大学病院で作成した音声付きスライドを希望施設に配布したが使用した施設はなく、今年度の使用を検討している施設はあった。
 - ・今年度の計画について、年4回の部会開催に加え、年1回開催するがん看護セミナーについては継続して開催したいという意見が多数のため計画を進める。
 - ・共通スライドについて、新たな領域の追加作成を含め再編成を検討したいが、コロナ禍で全施設が集まって話し合うのが難しいので、WGを作って検討していく予定である。

⑤ 研修教育部会

- 3月14日にweb開催された第22回研修教育部会、及び2月2日に開催された2021年度オン

ライン研修会について報告があった。

・年1回開催している研修会について、2月2日(水)19:00~20:00 リモートで開催した。テーマは「化学療法における連携を考える」とし、岡山大学病院の久保寿夫医師と日本原病院の森隆文医師に講演を行ってもらい、その後ディスカッションを行った。研修会を行うにあたり、県下の医療機関に事前アンケートを実施し71名から回答をいただいた。当日の参加者は約50名、終了後のアンケート回答は33名であった。参加者は、医師1/3、看護師1/3、その他の職種1/3で、「おおむね満足」との評価をいただいている。注目したいのは、事前アンケートにおける「Q6 連携を行うにあたって特に有用であった情報伝達手段は何か」という質問で、「医師の診療情報提供書」「地域連携室からの情報」「退院支援カンファレンス」が上位に入り、「地域連携パス」「晴れやかネット」という回答が非常に少なかったことが意外な結果であった。まだまだ活用ができていないようで、協議会と通じて今後改善が必要な部分かと感じた。また、「Q7 連携を進める上で良いアイデアはあるか」という自由記載の質問について、意見は大きく分けて「共通のフォーマットを作成」「情報システムの整備」「施設の情報提供・共有」の3点に絞られる。こちらも県として整備していかなければならないと感じた。今年度の研修会について、来年年明けに「連携」というテーマの意見交換会をリモート開催とし、医師・看護師以外の職種にも幅広く参加していただく方向で検討している。

⑥ がん登録部会

報告事項なし（昨年度は議題がなかったため未開催）

⑦ がん薬剤師部会

○3月26日にweb開催された第4回岡山県がん薬物療法セミナーについて報告があった。アンケート結果によるとおおむね良い評価をいただいた。昨年11月以降部会を開催していないので近々部会を開催して、この研修会の反省をすると共に今年度の計画も立てる予定である。

⑧ 歯科部会

○3月13日に開催された令和3年度がん医科歯科連携研修会について報告があった。岡山県委託事業で、岡山県と岡山県歯科医師会が主催、岡山県がん診療連携協議会に共催していただいた。がん患者を含めた周術期の患者の口腔機能管理について研修を行った。医科歯科連携はがん診療が滞りなく遂行するために重要な役割があると考えているので今後もこのような取り組みを推進していきたいと考えている。

⑨ がんゲノム医療部会

○第1回がんゲノム医療部会について報告があった。

- ・がんゲノム医療について、地域医療としてどのようにして皆が享受していくかが課題となっている。どの病院でも人材不足が上げられ、特に臨床検査技師、病理医、認定遺伝カウンセラーを育成していく方向で考えている。今後、各部門と共同して人材育成を進めていくことも検討している。
- ・臨床検査技師、病理医が扱う、手術検体のクオリティの均てん化を進める。
- ・遺伝医療（がんゲノムの遺伝情報を本人・血縁者に伝えることで未発症者に寄与していく）について検討していく。

⑩ がん・生殖医療部会

○2月28日にweb開催された第1回がん・生殖医療部会について報告があった。

- ・昨年度各施設に依頼して、がん患者の妊孕性温存に関する相談の実態についてアンケート調査を行った。どの施設もがん相談部門への相談件数は多くなく、コロナの影響かどうかは不明だが2019年度からは減少傾向が続いている。自施設で相談対応をしていないので他施設に紹介していると回答したところもあった。そこで、全施設に相談窓口を作るのは現実的ではないので、今年度は必要な患者に情報が届く体制を各施設で構築することを目標とする。相談窓口が整っていない施設はパンフレットを配ってもらうだけでも良いと思うし、県の不妊専門相談センターに相談するというネットワークを作るなど、相談体制を整備していく。
 - ・がん患者の生殖医療に関する相談について、がん相談支援部会と役割分担を相談しながら良い形が作っていったらと思う。
- がん相談支援部会：施設によって相談を担っている部署が違うと思うので、県内一律の対応ができ

るとは考えられない。今後、相談部会としても相談させていただくことがあるかもしれないのでよろしくお願ひしたい。

- ・県からの委託があつて、昨年度から始まつた妊孕性促進事業で助成金が出るようになったという内容を加えたパンフレットの改訂を行ったので、ぜひ活用していただきたい。
- ・医療スタッフ向けに、数施設で妊孕性温存に関するオンラインで講演を行った。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院
報告事項なし

(5) その他

○岡山大学病院より、3月16日に第78回がん対策推進協議会が開催され、国の方で第3期がん対策推進基本計画の中間評価報告(案)がまとめられている件について情報提供があつた。今までは5大がんを中心に評価してきたが、今後はそれ以外のがんについても評価しなくてはいけないのではないかと、特に小児がん、AYA世代のがん、高齢者がん、希少がん、難治がんに焦点を当てて評価していくことが進められているようである。また、拠点病院間の連携は進んできたが、拠点病院以外の病院との連携を今後重点的に進めるといふ案が練られているようである。この案を基に第79回に練り直しが行われる予定である。会議の様子はYouTubeで公開されているので興味のある方はぜひ視聴していただきたい。

○岡山県院内がん登録報告書(2019年版)が完成し各施設に送付したが、若干余りがあるので必要な方は事務局までご連絡いただきたい。

6 協議事項
特になし

7 その他

8 次回開催日

次回は、2022年8月頃開催予定。

開催日が近くなつたら日程調整を行う。

(対面の場合は岡山大学病院 大会議室、コロナ収束状況次第でweb開催とする)